



旅の目的 旅の目的地

校長 平島幸江

秋の高く澄み切った空が爽やかです。先日、6年生と一緒に栃木県日光市へ、修学旅行へ行ってきました。欠席者なし。6年児童全員参加で実施することができました。本当に良かったです。児童は、いい思い出がたくさんできた様子でした。また、本物を見て、様々な人と出会って、様々な事象と向き合って、考えて、多くの学びがあったと思います。旅にまつわる言葉に「The journey is the destination」という言葉があります。旅は目的地、旅することこそが旅の目的地、という意味でしょうか。6年生の修学旅行は、出来事一つ一つが心に残る、学びの1泊2日でした。

さて、10月は前期の学習を振り返り、成果と課題を後期の学習につなげる評価の月です。令和2年度より、保護者向け通知表「あゆみ」の学習評価の観点は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で記載しています。この評価の際、各指導者が教育課程全体を通じて育成を目指す資質能力の三つの柱を単元ごとに定め、それに合わせて定めた評価規準を用いて行っています。

例えば、算数の「円と球」の単元を指導する際、指導者が、実態と照らして、児童の「結果から学ぶ力」を育てたいと考え、育成したい資質能力の3つの柱は、①「数量や図形に進んで関わり、数学的に表現処理したことを振り返り数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとする態度を養う」、②「図形を構成する要素に着目し、構成の仕方ととも、図形の性質を見出し、身の回りのものの形を図形としてとらえること」、③「円について、中心、半径、直径を知ること、また、円に関連して、球についても直径などを知ること」としたとします。すると、この3つの柱の構想をもとにした3観点の評価規準を次のようにもち、これを念頭に、単元の指導に当たっていきます。(これは、評価規準例です)

<知識・技能>

- ・円及び球の中心や、直径について理解している。
- ・コンパスで円をかいたり、等しい長さをはかり取ったりうつしたりすることができる

<思考・判断・表現>

- ・円や球を構成する要素に着目し、構成の仕方や性質について考えることができる
- ・円の構成要素および性質に着目し、コンパスの機能について考えることができる

<主体的に学習に取り組む態度>

- ・日常事象から円や球の形をしたものを見つけ、円である理由を見出そうとしている
- ・コンパスの機能を知り、活用するよさを価値づけている
- ・円の構成要素や性質を日常事象と関連付け、円のもつよさや働きを見出そうとしている

このような日々の授業や単元ごとの評価を積み重ね、各教科の評価を行っていきます。教科の特性により、動作表現、制作物などの作品、成果物(新聞やレポートなど)、日々の授業中の発言や交流の様子、ペーパーテストの結果など多種多様な取り組みを評価していきます。大切にしたいことは、結果ではなく、ひとり一人の成長の過程を評価し次につなげていくという考え方です。

あゆみに記載する際は、評価規準に照らして「おおむね満足できる(要は規準を満たしているということ)」ものを○、「十分満足できる」ものを◎、「努力を要する」ものを△で表記します。(詳しくは、9月5日付で配付した「あゆみの見方」をご覧ください。)

今年度の千秀小学校では、「自分で考え」「表現する」ことに重点をおいて教育活動に取り組んでいます。10月6日に担任からお子さんへ手渡される「あゆみ」には、ひとり一人のお子さんの努力と成長の道のりを記載します。○や◎の数に一喜一憂することなく、お子さんの努力と成果を読み取っていただき、ほめて励まして後期への意欲につなげていただければ幸いです。改めましてお願いいたします。